

眼科この1年

眼科医長 花田 一 臣

人事異動

平成14年は当初菅野晴美、澤木渉の2名体制で診療を当たっておりました。4月に菅野が市立旭川病院へ医長として転出し旭川医大より花田一臣が赴任、10月に澤木が王子総合病院へ転出し同院より井上玲が赴任し2名体制での診療を引き続き行っております。

診療状況

昨年と同様、医師2名、看護師2名、視能訓練士1名で対応しております。外来は月曜日から金曜日までの午前と月曜日の午後に2診で行っており、来院患者数は1日平均105名で前年よりわずかに増加しています。火曜日と金曜日の午後は手術日で白内障手術を中心にを行い、外来では視能訓練士による視野検査などの各種視機能検査を行っています。水曜日の午後は蛍光眼底造影などの検査とレーザー光凝固や霰粒腫切開などの外来手術、木曜日の午後はコンタクトレンズ初心者に対応した外来を行っています。今年度より新しいレーザー光凝固装置が導入されました。名寄市内の患者さんだけでなく周辺地域からの紹介もあり、外来手術件数は増加しています。

入院・手術

眼科の病棟は4階東で、消化器内科との混合病棟です。ベット数は10床で、一日平均7名が入院しています。毎週6例から8例の手術を行っており、定期手術の入院待ちは1ヶ月程度です。

平成14年度の年間手術件数は292例で前年度より1割程度減少しています。内訳では白内障手

術件数の減少が目立ちます。白内障手術は手技の進歩にともない、早期・軽度の視力低下での手術適応が一般的となっており、当院でも侵襲が少なく短時間で手術ができる超音波乳化吸引術を中心にしております。しかし、家族に手を引かれて来院するような高度の視力障害を呈するまで放置された患者さんもいまだにあり、眼科地域医療の充足にはまだまだと言った感があります。

また、本年より角膜疾患に対する手術も対応できるよう体制を整え、角膜移植術1例と表層角膜切除術2例を行うことができました。後眼部疾患についても網膜剥離に対する網膜復位術をできるだけ当院で行うように努めるなど、前眼部から眼底後極部にいたるすべての眼科領域にわたる手術に対応できるよう日頃備えております。地域における要として専門的治療と緊急対応を兼ね備えた眼科診療を目指していきたいと考えております。

平成14年度手術件数

白内障手術	242例
翼状片・結膜腫切除	19例
眼瞼内反・外反症手術	7例
眼瞼下垂手術	5例
緑内障手術	1例
硝子体手術	2例
網膜剥離手術	4例
角膜疾患手術	3例
強角膜創縫合	3例
前房洗浄	2例
その他	4例
計	292例